

<p style="text-align: center;">比較現代文化論 (Views on Comparative Modern Cultures)</p>	<p style="text-align: center;">1 年・前期・2 単位・選択 3 専攻共通・担当 松井 真希子</p>	
	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 C-1 (80%), A-1 (20%)</p>	<p style="text-align: center;">〔JABEE 基準〕 (f), (a)</p>
<p>〔講義の目的〕 古代中国、とりわけ春秋戦国時代には様々な言論や思想が生まれた。それらは後に諸子百家と呼ばれるようになるが、その中でも『論語』や『老子』といった書物は現在でも多くの訳本や関連書物が出版されている。訳本の他にも、諸子の考え方をビジネスシーンに生かす書物も多数出版されている。 このように現代にまで生き続ける諸子百家の思想内容を通して、自分の生き方を探ることを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 本講義では諸子百家の主な学派を取り上げて、その思想内容を概説する。具体的には、各学派や思想家の主な文献を提示し、そこからそれぞれの思想内容を読み解いていく。その文献が著された当時の社会情勢や人物関係についても述べる。また、文献だけでなく、映画などの視覚教材も適宜用いる。 毎回授業の感想や授業で学んだ内容に対する自分の意見を回答してもらう。この回答が有意義なものとなるように、質問や疑問を考えながら講義に臨んでほしい。講義の最中にはその場で解決できない問題が浮上するかもしれない。その時にはクラスで議論や討論などを行うこともある。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 ①講義では簡単な漢文を読む機会を設けたい。本科で学んだ漢文の基本的な読み方を復習しておくこと。 また、国語便覧の漢文の箇所に通しておくのもよい。 ②講義に当たっては適宜プリント教材を用いるが、それらを保管するファイルを準備すること。クリアファイルではなくフラットファイルが望ましい。また、板書内容を記録するノート類も準備すること。 ③予習・復習を行い、時には図書館などで関連する書物を読んで基礎的な知識を定着させること。 ④中国古代思想は現代の我々の生き方を考えるうえで指針を示しうる価値を持っている。そのことを念頭に置いて主体的に参加すること。</p>		
<p>〔到達目標〕 ①諸子百家の思想内容について、基礎的な知識を獲得している。 ②諸子百家を通して様々な考え方に触れ、その知識を生かして自身の生き方を主体的に見通す思考力を身に付けている。</p>		
<p>〔評価方法〕 試験 (50%)、授業中の回答 (30%)、授業への取り組み・態度 (20%)</p>		
<p>〔自己学習〕 講義で触れた学派や思想家について、各自関連する文献を読み、理解を深めるようにすること。</p>		
<p>〔教材〕 プリント教材を用いる。 〔参考書〕 金谷治『中国思想を考える』(中央公論社) 湯浅邦弘『諸子百家』(中央公論新社) 浅野裕一『諸子百家』(講談社) など、各種中国思想関連の文庫や新書 漢和辞典を一冊準備しているとよい (電子辞書でも可)。</p>		
<p>〔関連科目〕 特に人文社会系の科目と関連が深い。ただし、漢文の読解は思考力を養うのに有益であり、そこで養われた思考力は文系・理系を問わず様々な分野に応用することができる。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	シラバス等の説明	
第2週	儒家①	孔子と『論語』について。	
第3週	儒家②	『孟子』について	
第4週	儒家③	『荀子』について	
第5週	道家①	『老子』について	
第6週	道家②	『莊子』について	
第7週	墨家	『墨子』について	
第8週	法家	『韓非子』について	
第9週	兵家	『孫子』について	
第10週	名家	恵子と公孫竜子について	
第11週	陰陽家、農家	鄒衍について 『斉民要術』、神農、許行について	
第12週	雑家	『管子』、『呂氏春秋』、『淮南子』について	
第13週	その他	先秦諸子の後世の展開①	
第14週	その他	先秦諸子の後世の展開②	
第15週	まとめ	試験、総括	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)